

## 陽ざしの会 & 大分県難聴者協会 合同新年会

1月25日、大分市アートプラザ1階の「ビッグホース」で合同新年会が開催された。参加したのは15人（難聴者協会6人、夢サラダ・青年部3人、陽ざしの会6人）の皆さん。

今回はUDトークを使っての情報保障。各テーブルに置かれたiPadに小倉難聴者協会会長の挨拶が流れた。「マイクが正確に声を拾っている」と感嘆の声。ところが食事の雑談になるとテーブルごとの会話が混在するのか、話の脈略が乱れ「誰が話しているのか」「名乗ってから発言した方がいいかなあ」という意見も。機器の使い方だけでなく、話し方もまだまだ研究や練習が必要と実感した。

陽ざしの会で保管していた30年前の難聴者協会の写真アルバムも持ち込まれ、なつかしい思い出話に花が咲いた。

(小寺 淑子)



大分県難聴者協会会長より

新年会にご参加の皆様、あけましておめでとうございます。今年、私達には全難聴の全国大会を別府市で開催するという大きな目標があります。会場を予定しているビーコンプラザのフィルハーモニアホールは、客席の形状が馬のひづめ型になっている会場です。

本日のお店もビッグホースという馬の名前から取った店名。こちらのお店ができたのは1972年ということですが、私が生まれたのも同じ年です。ちなみに、私の趣味は乗馬で昨秋には馬場馬術3級ライセンスを取得しました。本日、このお店で新年を祝えることができましたのもご縁があると考えています。

今年、全国大会の裏テーマは「一体感」です。これまで以上に参加者の一体感を体現できる大会にします。これを実現することで、来年、再来年も全国大会を開催し続けていけるエネルギーになると信じています。

たいへんなこともあるかと思いますが、皆さんと一緒に精一杯がんばっていきたく思います。よろしくお祈りします。

(小倉 鉄郎)

たくさん食べて、たくさん笑って  
良い時間を過ごせました。  
またみんなで集まろうね。



## 「第26回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 In おんせん県おおいた」に向けて

(全要研大分県支部 磯田 ひろみ)

全国中途失聴者・難聴者福祉大会が平成8年(1996年)以来、24年ぶりに大分県で開催されます。

その当時と比べ、「聞こえのQOL」も向上し、暮らしやすくなっているとはいえ、まだまだ、社会的にひきこもる人も多いと聞いています。

難聴者・中途失聴者への理解を深めるためにも、福祉大会を地域社会に呼びかけ、開催することに意義があると思います。

これまで大分県で開催された大会も下記のように多くあり、地域で生き生きと暮らせる機会になり、交流も深まったと思います。

### <九州、全国大会と要約筆記の関わり>

1996年 第5回全国難聴者福祉大会(別府市 ビーコンプラザ)

2005年 第8回全要研九州ブロック研修会 in 大分 (別府市 亀の井ホテル)

主催は全要研九州ブロック、全難聴九州ブロック)

当時は陽ざしの会が団体として全要研に入会していたので、陽ざしの会を中心に中津、佐伯要約筆記メンバーにも協力いただき大会を実施。

(全要研が個人会員制になったため2007年、全要研大分県支部設立)

2009年 第14回全国難聴者のつどい「長楽の集い」湯布院大会 (由布市)

2011年 全通研集会 in 大分(別府市 ビーコンプラザ・立命館アジア太平洋大学)

今回、第26回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in おんせん県おおいたが  
2020年12月12日(土)～13日、別府市のビーコンプラザで開催されます。

主 催：一般社団法人全国難聴者・中途失聴者団体連合会

事務局長：小倉 鉄郎(大分県難聴者協会)

副事務局長：磯田 ひろみ(全要研大分県支部)

担当部署として会計・式典・懇親会・会場設営・観光などがあり、会員の皆様にも例会等を通じて、各担当でのご協力をお願いしています。

小倉事務局長を中心に、各担当部署での話し合いを重ねていくこととなります。

様々なご意見をいただきながら進めていき、他県からの参加者の方に、大分の良さを感じていただき、大会を楽しんでいただきたいと思います。

「湯を沸かすほどの熱い絆 新時代のきこえはここからまた始まる」の大会テーマのもと、大会実施趣旨にそって全要研、陽ざしの会サークル(陽ざしの会、陽だまりの会、中津まなざし)、手話団体等と協力して大会成功のため、頑張りましょう。



研修部長に  
聞きました!

# 2019 年度研修部の活動報告

手書き研修部では、年間を通して主に派遣と要約のために役立つ学習をしてきました。月にクセ字、表記、前ロールの書き方、前ロールの引き方、ノートテイク、iPadの使い方(合同)、試験に関しては、派遣でできていれば試験でもできるということで、特別なことはしませんでした。クセ字は特に漢字を一つひとつ、ロールに書いたものを見て、止め、跳ね、と細かく確認しました。

前ロールは実際に派遣で書きますが、いつも有るわけではないので、実際に割り当ててその場で書き、話に合わせて引いていく練習をしました。そうしたところ、ロールを引くのもコツが必要で、引き方が悪いと読みにくくなることも分かりました。また、前ロールの書き方は先輩の書き方のほうが読みやすいと感じました。

ノートテイクでは、ペンを寝かせて書く練習をしました。ペンを立てて書くと、利用者は筆記者が1行を書き終わるまで見えないため、情報の獲得が遅れていくということが分かりました。

これは、全体投影ではメインの書いたものがサブから見えないので補筆、訂正が出来ない、しにくいことにも気付きました。こういったことは派遣でも学べますが、派遣で活かすには、やはり学習してこそだと思います。

皆さん、手書き、パソコンに限らず学習は大事です。積極的に学習会へ参加してはどうですか？

(手書き研修部長 久松 久仁子)



今年度は派遣に役立つ情報保障について IPtalk67 の新機能を学び、トラブルの解決策を一緒に考えましたが、学習会の出席者は同じ顔触れとなり多くの方に伝わるのが難しかったです。

新機能は学ばなくても今のままで何も困ることがないのでこのままでいい・・・・・・でも新しいことも取り入れ、選択肢をもって情報保障をすることも大切ではないでしょうか。

3原則の「速く」「正しく」「読みやすく」でパソコン要約筆記は手書きに比べて情報が多いため利用者の負担にならない「読みやすく」を考えました。

そしてトラブルの対応で学ぶことが多いです。これからも一緒に対応していきたいです。

(パソコン研修部長 仲摩 由美子)

